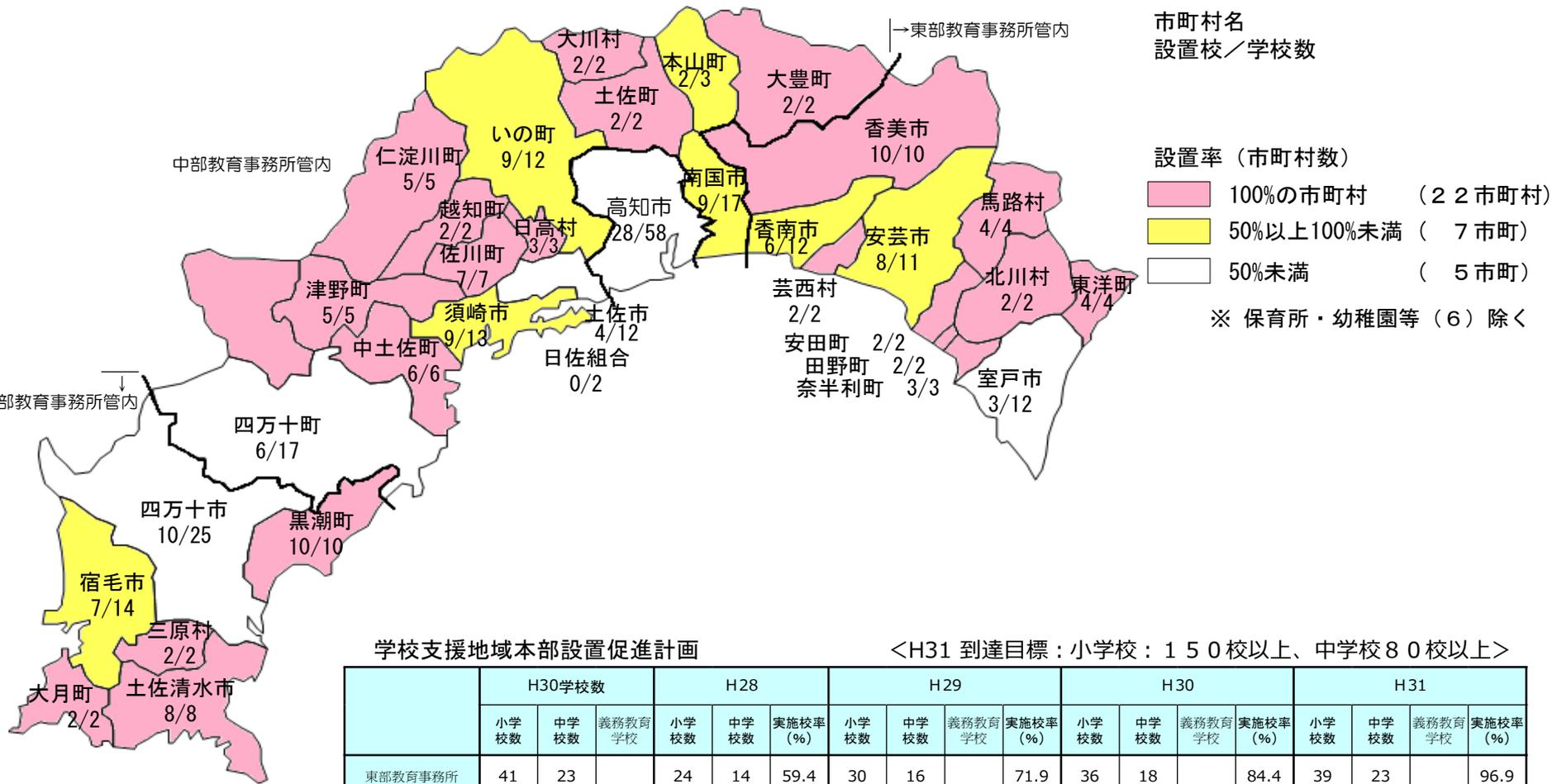


平成29年度 学校支援地域本部事業 に関するアンケート(まとめ)



I H29学校支援地域本部事業実施状況



学校支援地域本部設置促進計画

<H31 到達目標：小学校：150校以上、中学校80校以上>

	H30学校数			H28			H29				H30				H31			
	小学校数	中学校数	義務教育学校	小学校数	中学校数	実施校率(%)	小学校数	中学校数	義務教育学校	実施校率(%)	小学校数	中学校数	義務教育学校	実施校率(%)	小学校数	中学校数	義務教育学校	実施校率(%)
東部教育事務所	41	23		24	14	59.4	30	16		71.9	36	18		84.4	39	23		96.9
中部教育事務所	72	40		36	21	50.9	50	27		68.8	62	30		82.1	65	38		92
西部教育事務所	39	21		19	7	42.6	26	13		63.9	39	20		98.3	39	21		100
高知市	39	17	2	3	2	8.6	9	17	2	48.3	15	17	2	58.6	21	17	2	69
計	191	101	2	82	44	42.4	115	73	2	64.4	152	85	2	81.3	164	99	2	90.1

※H28,H29の実施校率は、H28,H29の学校数を基に算定

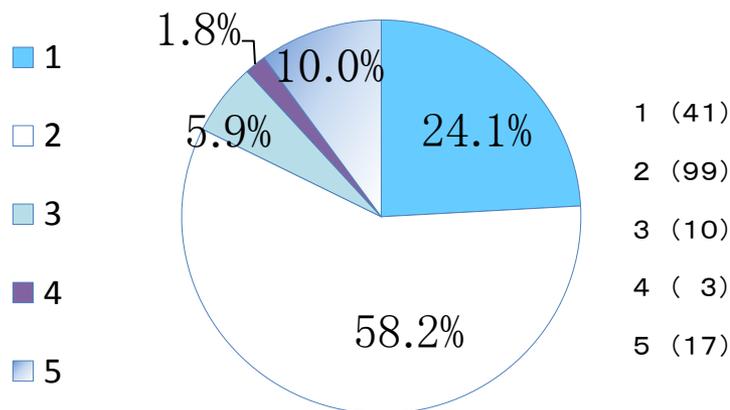
1 本部事業を実施してみて、どの程度効果があったと感じていますか。

選択肢 1 効果が得られた 2 ある程度効果が得られた 3 あまり効果が得られなかった
4 効果が得られなかった 5 分からない

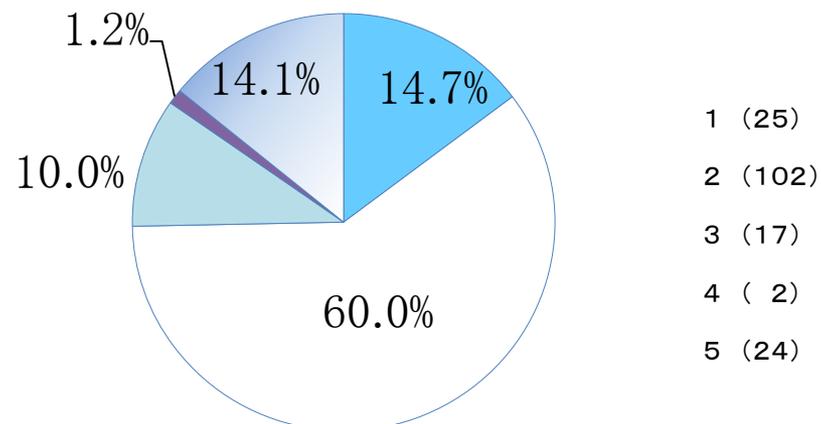
(1) 子どもたちが地域住民と交流することにより、様々な体験の場が増えたことによる効果について(学校アンケートより)

n = 170

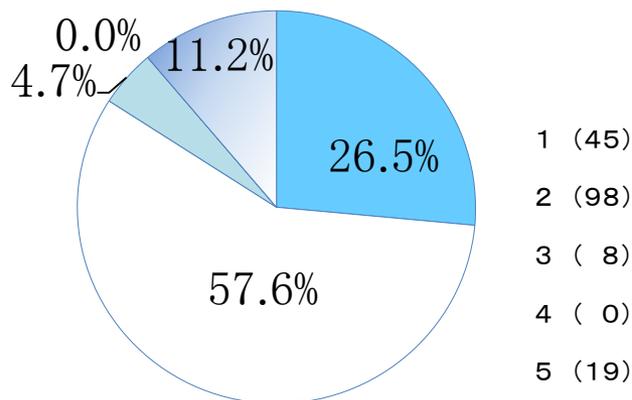
① 自尊感情の向上につながった



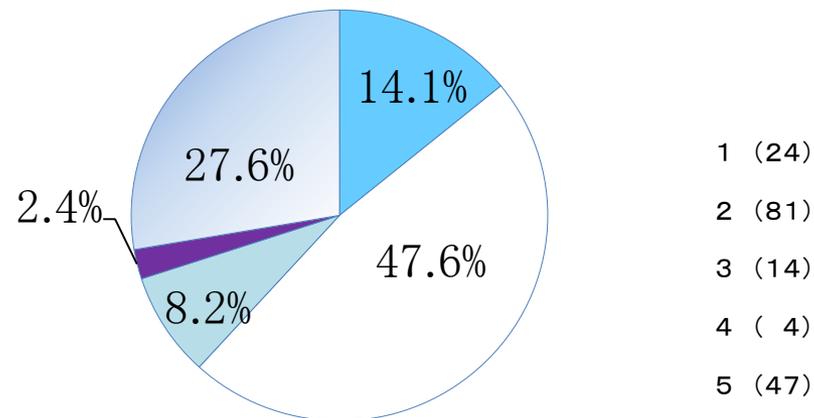
② 規範意識の向上につながった



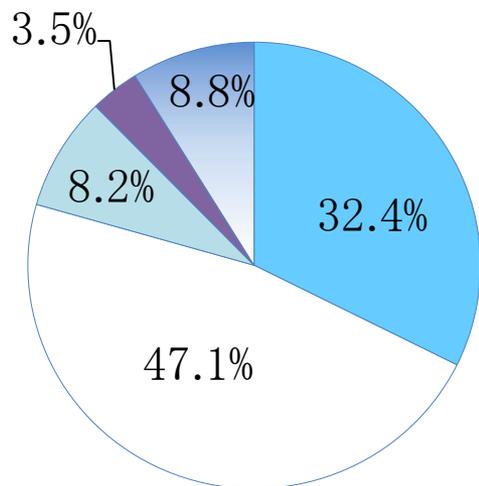
③ コミュニケーション能力の向上につながった



④ 学力向上につながった



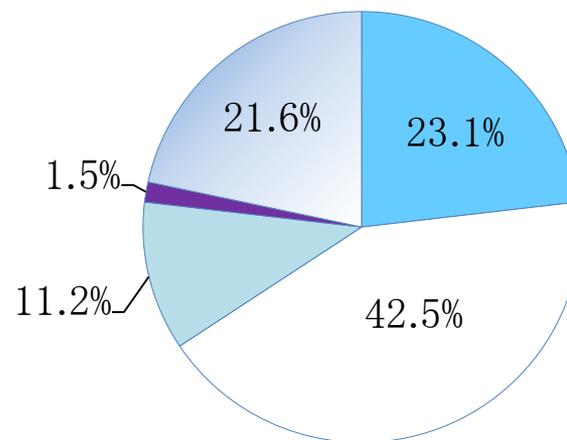
(2) 地域住民が学校を支援することにより、教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができた(学校アンケートより)



n = 170

- 1 (55)
- 2 (80)
- 3 (14)
- 4 (6)
- 5 (15)

(3) 学校外で、子どもたちと地域住民が交流する機会が増えた(コーディネーターアンケートより)

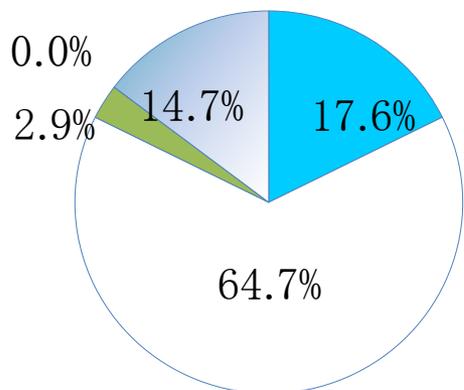


n = 134

- 1 (31)
- 2 (57)
- 3 (15)
- 4 (2)
- 5 (29)

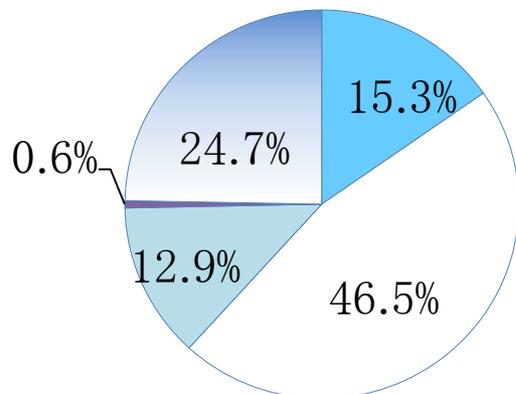
(4) 地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった

<市町村等> n = 34



- 1 (6)
- 2 (22)
- 3 (1)
- 4 (0)
- 5 (5)

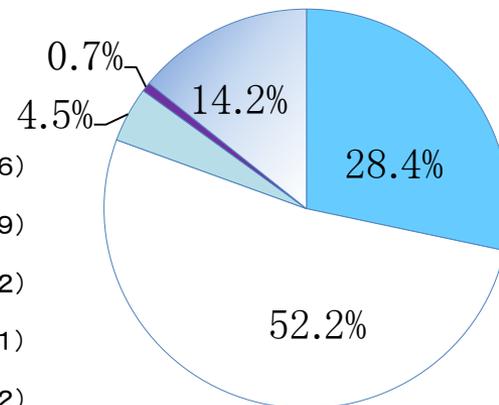
<学 校> n = 170



- 1 (26)
- 2 (79)
- 3 (22)
- 4 (1)
- 5 (42)

2

<コーディネーター> n = 134



- 1 (38)
- 2 (70)
- 3 (6)
- 4 (1)
- 5 (19)

2 効果を感じた取組について、具体例を教えてください。

(学校アンケートより抜粋)

◆ 自尊感情・コミュニケーション能力の向上等

- ・生活科、総合的な学習で地域の方にインタビューしたり、見学させてもらうことで、コミュニケーションの能力の向上、訪問の際のマナーや言葉遣いなどを意識させる機会となった。
- ・昼学習、放課後加力学習、算数教室で、基礎的な学力定着に効果が上がっている。登下校や学校行事等様々な場面で地域の方と触れ合うことでコミュニケーション力が身につく、つながりも深まっている。
- ・登校時に毎朝声をかけてもらい、地域の方々に自分たちからあいさつをする児童が増えてきて、規範意識の向上につながった。
- ・読み聞かせボランティアや環境学習、防災学習、米作りなど様々な活動において、地域の協力が得られることで学校だけではできない体験と豊かな出会いにより子どもたちの自己肯定感、故郷を大切に思う心が育まれた。

◆ 教員の負担軽減等

- ・書写や筆など専門的な指導を行ってくれ、生徒たちに質の高い学習を提供でき、教員の負担減少にもつながっている。
- ・学習の〇付けを、朝にすることで、地域の方に来てもらいやすくなり、子どもたちとの交流する機会が増えた。地域の方が〇付けをしてくれるので、担任は、学習の遅れ気味の児童に寄り添って指導することができている。
- ・たとえばプール掃除に関して、少人数の学校であるため児童生徒と教員だけでは多くの日数がかかるが、地域の消防団が力を貸してくれて短時間で作業ができ、スムーズに水泳指導に入ることができている。
- ・月2～3回実施のチャレンジ学習では、地域の方に〇付けをしていただくことで、教員が個別指導にあたることのできる時間が大幅に増え、効率的で効果的な学習を展開することができている。
- ・ミシン指導の際に苦手な子に細やかにアドバイスすることができ、マンパワーの大切さを感じた。
- ・水泳指導で、浮かべない息継ぎが苦手な児童に個別に専門的にあたっていただき、担任は全体への指導に全面的にあたることのできた。
- ・学習支援や環境整備をしていただけるので、その時間に授業の準備や添削の時間がとることができる。
- ・本校の特色である教育活動において、例えば社会科や総合的な学習の時間で、様々な側面から地域の方による専門的な知見に基づく準備・説明等の支援を受けることにより、教員が時間を有効に活用することができた。(ウミガメ保護、農業体験活動等)

◆ 子どもたちの学習意欲の向上

- ある学年では総合的な学習の時間の取組において、地域の方々にお世話いただき、地域学習に意欲的に児童が取り組むことができた。
- 生徒が自分の行動に責任をもって活動でき、地域貢献を意識でき始めている。
- 毎年、本の読み聞かせ、田植え稲刈り、クラブの指導員をしてくださっている。子どもたちもよく理解でき、集中して真剣に取り組んでいる。
- 地域の方から直接声をかけていただくことで、認められ、よりしっかり取り組もうとする姿につながっていった。
- 放課後の塾を開設したことにより、学習意欲の向上と難問への取り組みが向上した。

◆ その他

- 地域の方々と共に活動する中で、児童の取組等に評価を頂くことにより、地域の一員であるという児童の意識が育つ。
- 地域の方々と交流する機会が増え、子ども達も地域の方に親近感を持っているように感じる。
- 地域の大人たちから、日々の声かけ、見守り等でほとんどの児童があいさつがよくできた。学校・保護者以外の人から褒められることで、地域の活動に積極的に参加でき出した。
- 毎月、行っている朝ごはん食堂で、子どもたちの学校・地域に対する安心感になっている。
- 地域の方々が学校に気軽に出入りしてくれるので、挨拶が増え、明るい学校、子どもの安心感につながった。
- 地域の講師に来校してもらうことで、子供の様子や実態を知ってもらい、地域の活性化につながっていると感じる。
- 「子どもたちから元気をもらいよう。」という声に代表されるように、地域のお年寄りの元気づくりにもつながっている。

(コーディネーターアンケートより抜粋)

◆ 地域との交流・連携

- 各種行事を行う事により、地域住民も学校を知り、子どもたちを知り、子どもたちも地域の人を知り、お互いが相手のために何か役立ちたいと考えている。
- 防災活動において、地域と連携することで地域の防災意識を高めるのに役立った。自主防災組織が学校や各防災組織と活動を共にすることで、避難場所の整備など考えるきっかけとなった。
- 地域のつながりと子どもたちとのつながりが深まってきた。また、学校の先生方との触れ合いを通して学校が地域にとって身近な存在に感じられることができるようになってきた。
- 毎日の登下校中や地域の夏祭り等で、地域の方と児童生徒があいさつしたり会話したりする姿が、よく見られている。
- 地域のお祭り等にも参加だけでなく、片付け等や用意等での交流も見られるようになった。
- 学校前の通学路数百メートルにわたって、季節ごとに、ミニこいのぼりや風車などを飾りつけてくれている。地域は児童への応援と見守りの意味を込めて、また、児童と教職員は、感謝の気持ちと地域との連帯感を感じている。

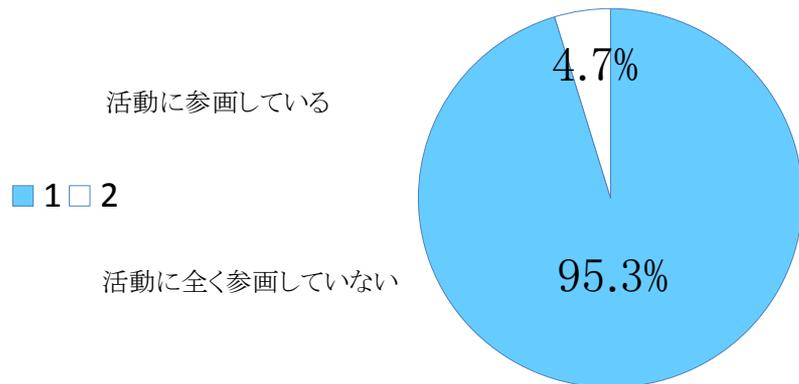
(市町村アンケートより抜粋)

◆ 効果等

- 教職員や地域の大人たちが子供たちと向き合う時間の増加、地域の教育力の活性化、そして、地域住民の生きがいづくりを図れた。
- 地域住民と学校が近くなり、地域で子どもたちを見守るといった雰囲気が出てきている。
- 地域の方々から、総合学習や伝統芸能等のご指導をいただき、学習発表会でその成果が出たように思う。また、地域からの褒めの言葉があるなど、子どもたちの学力向上へもつながったと思う。
- 環境整備活動を間近に見たり、触れることで、児童の環境美化意識の向上にもつながっている。
- サポートしてくれているボランティアさん自身の意識の変化（お手伝い感覚→生きがい、楽しみ、学校支援活動への提案など能動から主体に）
- 組織をつくることにより、地域住民が学校に行きやすくなったという声や、学校側も支援をお願いしやすくなったという話を聞いた。
- 本事業を通して、これまであまり連携が取れなかった福祉分野の方々（特に社会福祉協議会）との連携が多くなることにより、様々な方面から学校の支援ができるようになった。

3 民生・児童委員の活動への参画状況

(1) 民生・児童委員の活動への参画状況を教えてください。(学校アンケートより)



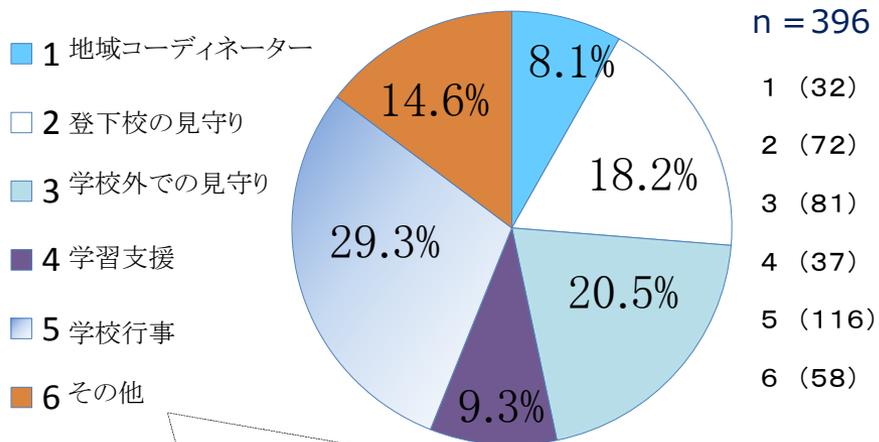
n = 170

1 (162) 延べ参画人数 876名

2 (8)

(2) 民生・児童委員が活動に参加している場合、活動内容を具体的に教えてください。

(学校アンケートより)【複数回答可】



n = 396

1 (32)

2 (72)

3 (81)

4 (37)

5 (116)

6 (58)

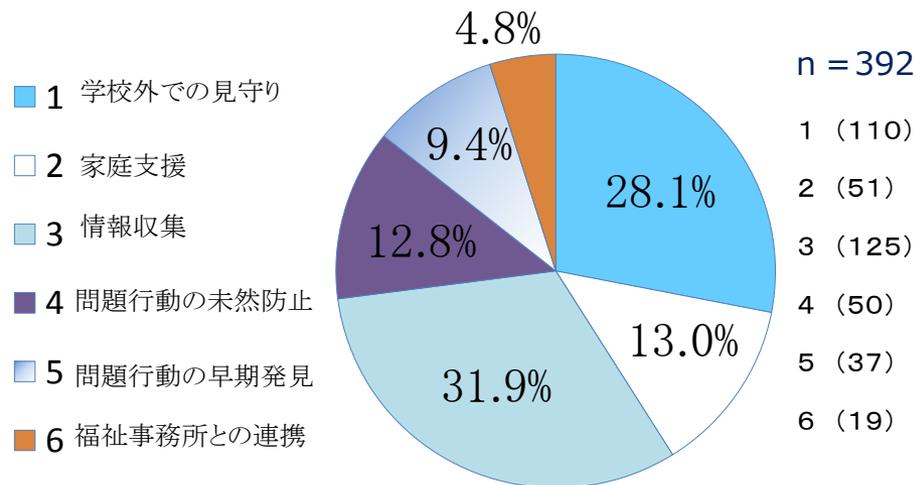
・朝食作り
・読み聞かせ
・心配される家庭・生徒に対するケース会
・環境整備

・ラジオ体操
・花育・食育活動
・防災体験学習、こいのぼりづくり
・学校運営協議会への参加 等

4

(3) 民生・児童委員が活動に入ることにより、どのような効果が得られたと思いますか。

(学校アンケートより)【複数回答可】



n = 392

1 (110)

2 (51)

3 (125)

4 (50)

5 (37)

6 (19)

4 民生・児童委員が活動に入ることにより、効果を感じた取組について、具体例を教えてください。（学校アンケートより抜粋）

◆ 情報共有・支援方針等の話し合いの場

- 定期的に連絡会を開いており、情報共有を密に行うことができている。情報を共有することで他機関への連携や日々の支援活動に活かしてもらっている。
- 子どもたちの学校外での過ごし方や、家庭環境や保護者の状況などについて情報共有ができ、子どもへの声のかけ方や配慮しなければいけないことを共通理解できる。
- 個人情報や子どもを中心に配慮していただける点など、お互い守秘義務をもつ立場としてより具体的な情報の共有と協力が得られる。
- 特に、厳しい環境に置かれている児童・家庭への支援策を練り、実行にうつす時、地域の情報はより適切な支援を講ずる上での貴重なものになっている。
- 日頃から児童生徒を見守る意識のある民生・児童委員さんだからこそ、教職員の目が至らない休日や朝・放課後の児童の様子に係る情報をいただける。学校運営協議会等でこれらの情報・意見交換を行うことで、民生・児童委員の皆さんに、より主体的に児童等に関わっていただけるとともに、学校での指導や評価もより実態に即した内容で行うことができている。

◆ 問題行動等の未然防止

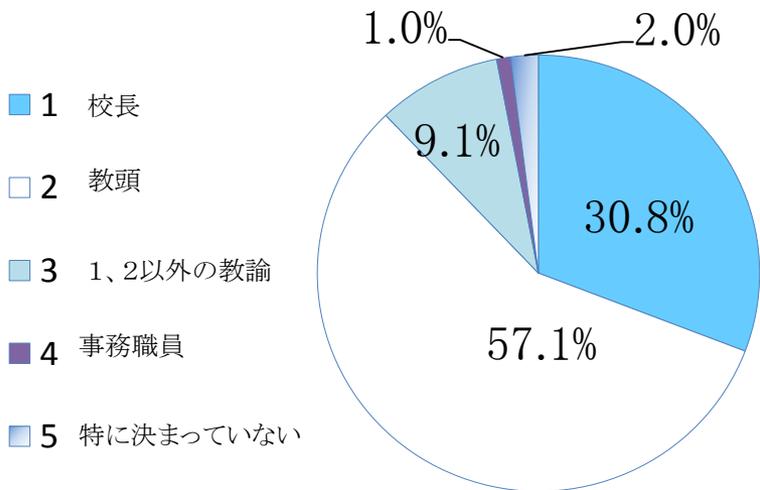
- 生徒たちの学校外での様子や情報をもらうことにより、問題行動の早期発見や迅速な対応ができる。
- 民生・児童委員が小学校時より学習支援や行事支援を通じて、生徒たちと顔見知りとなり、学校外でも声をかけ合う関係ができている。親身になった声かけや支援により、問題行動の未然防止をはじめ、生徒の心の成長に良い影響を与えている。
- 地域での子どもたちの様子を心がけていただき、見守ってくださることで、問題行動の未然防止など、安全な生活を送ることができていると感じている。

◆ その他

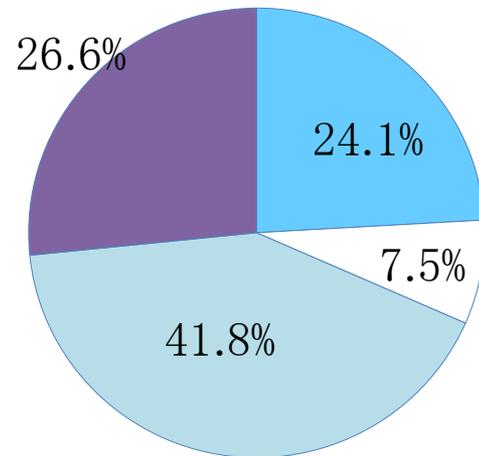
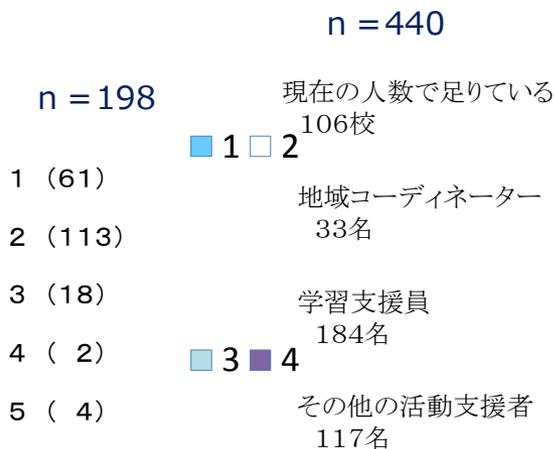
- 多くの場面で学校へ来ていただくことで、子どもの姿や様子の実際を知っていただく機会となり、平素の交わりや声かけ、情報交換する機会、家庭とのつながりなどが確実に広く深くなっている。知ってもらうことが共に子どもたちを育てていただくことに繋がっている。
- 気になる家庭の見守りを継続し、次第にその家庭（母親）からの信頼を得ることができるようになった。今では、気になる家庭の児童を定期的に預かり、お世話をして下さっている。

5 学校支援地域本部の状況

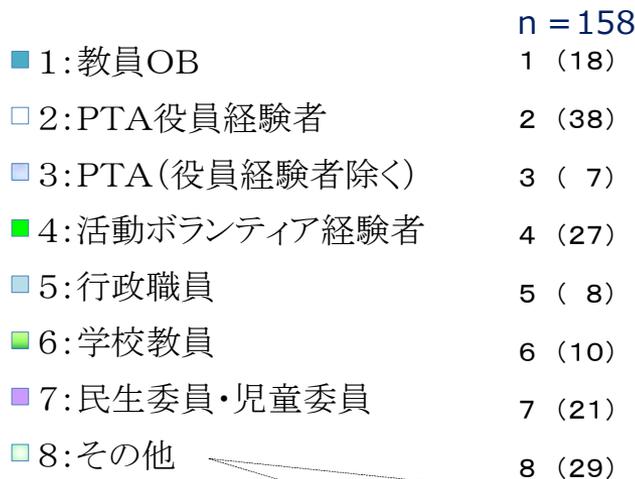
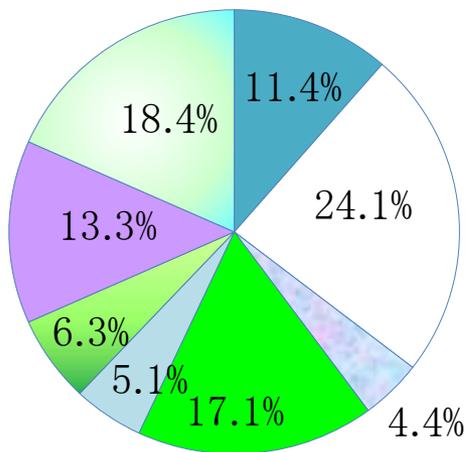
(1) 学校と地域の連絡・調整役(学校側の窓口)について伺います。どなたが担当していますか。
(学校アンケートより)【複数回答可】



(2) 現在行っている活動に対してのスタッフは足りていますか。足りていない場合は、最低限後何名必要ですか。
(学校アンケートより)【複数回答可】

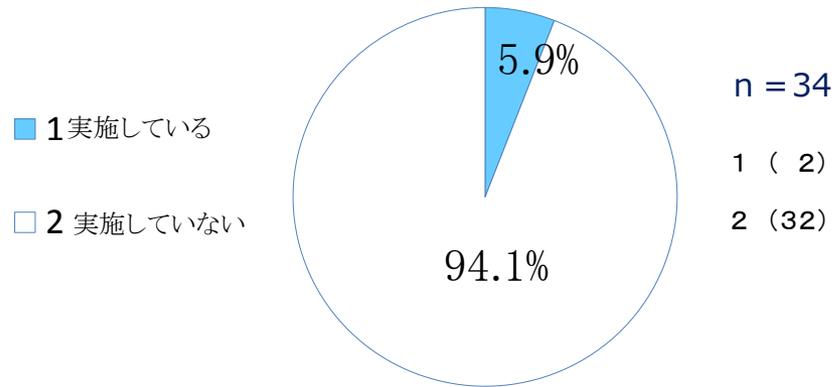


(3) あなたの属性を教えてください。(コーディネーターアンケートより)【複数回答可】

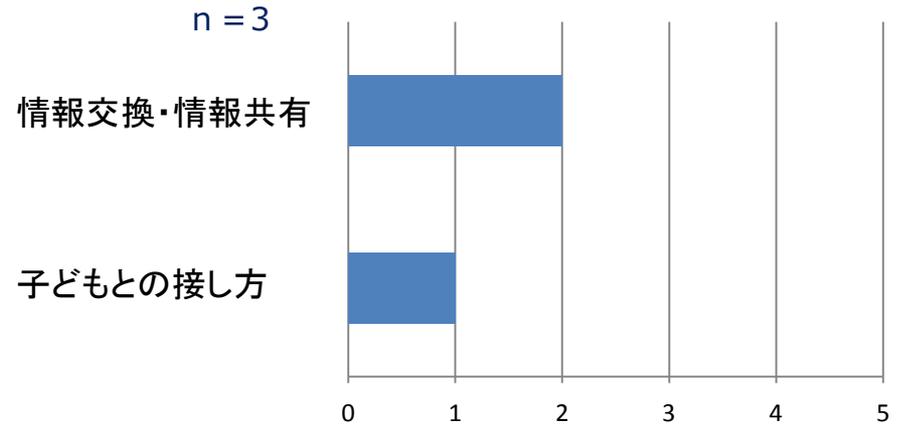


・放課後子ども教室指導員
・公民館長
・地域の各種役員・等
・元PTA
・地域おこし協力隊
・地区区長 等

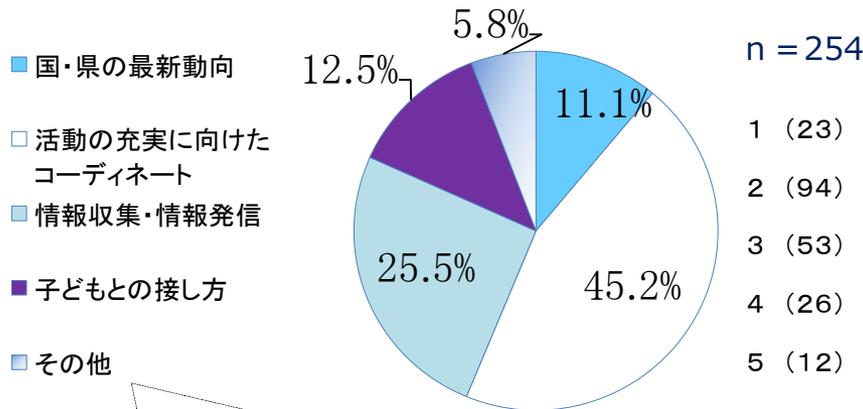
(4) 市町村において、地域コーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーター等に対して、研修会を実施していますか。(市町村アンケートより)



(5) 研修を実施している場合、どのような内容を行っていますか。(市町村アンケートより)【複数回答可】



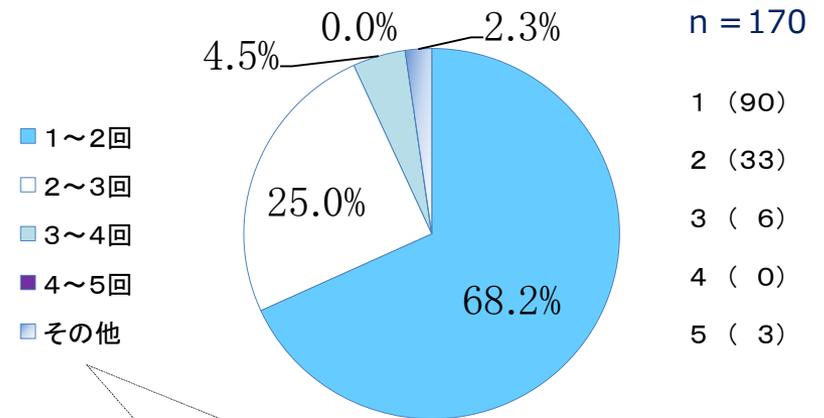
(6) 県や市町村が実施するコーディネーターを対象とした研修会への参加について教えてください。(コーディネーターアンケートより)【複数回答可】



- ・コーディネーター同士の意見交換や交流会
- ・失敗例あるいは控えるべき所
- ・他の実践事例
- ・ボランティア養成講座

- ・地域の子どもの守り育て伸ばす、より一層の手立て
- ・質の向上を図れるような内容の研修会
- ・ニーズなし 等

(7) (6)のような内容の研修会について、年間何回開催を希望しますか。(コーディネーターアンケートより)



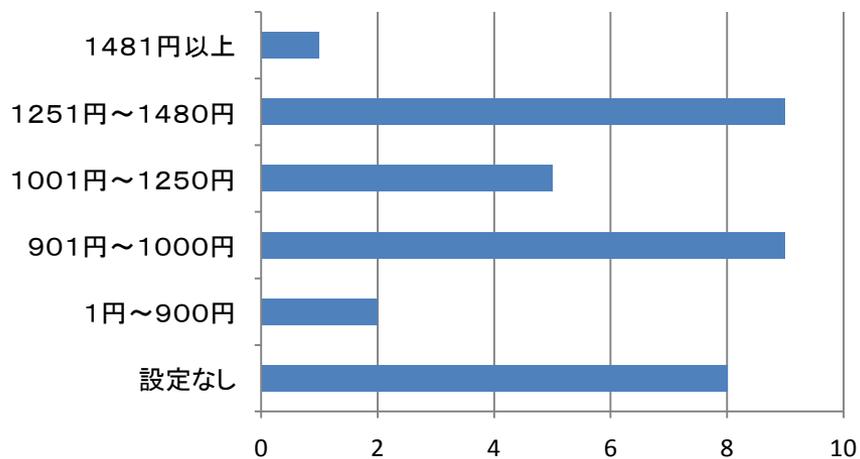
- ・自営業のため夜なかなか参加することができない 等

6 活動に携わる支援者の謝金単価を教えてください。（市町村アンケートより）

（複数設定している場合は、最高金額と最低金額）

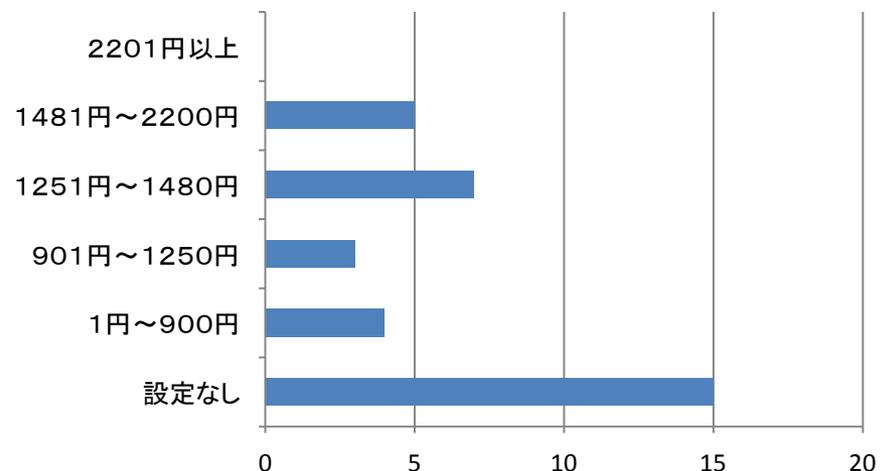
n = 34

地域コーディネーター



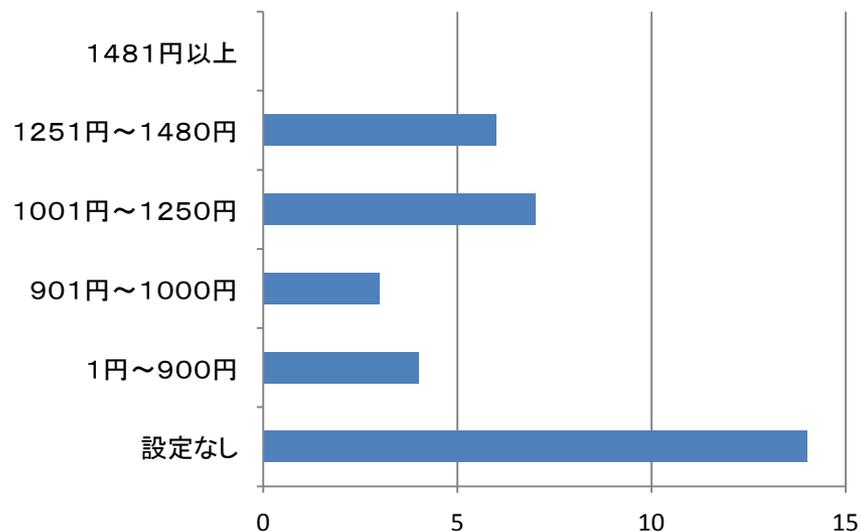
学習支援員

（最低金額は、1000円3件、723円1件）

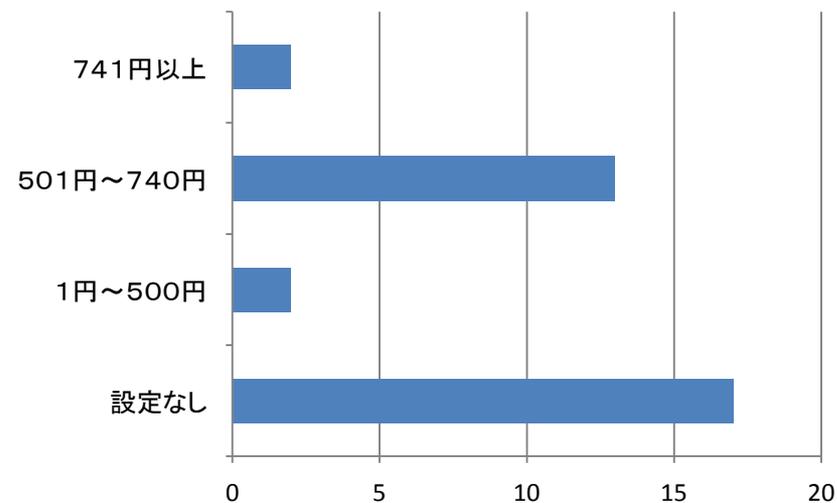


教育活動推進員

（最低金額は、1000円1件）



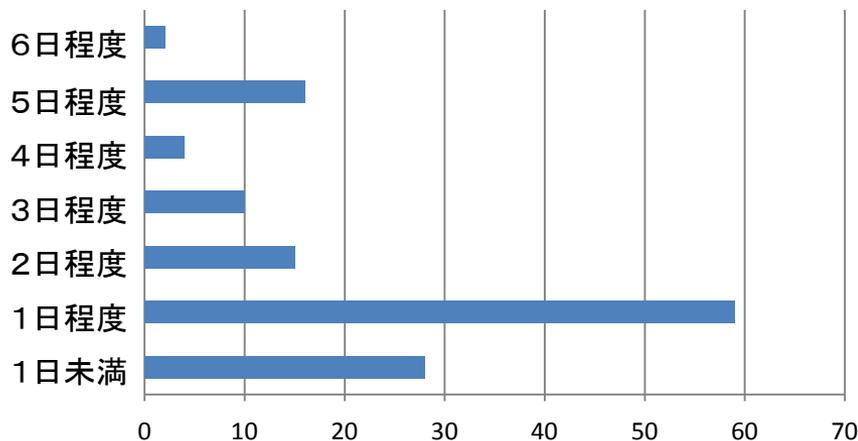
教育活動サポーター



7 コーディネーターとしての、活動状況を教えてください。(コーディネーターアンケートより)

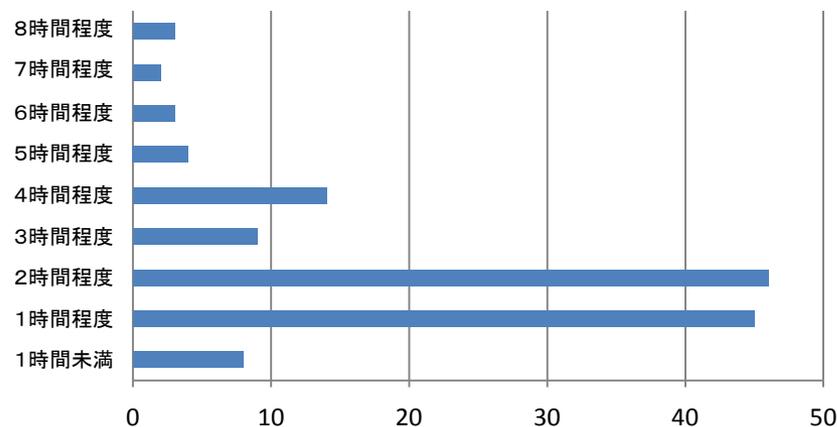
1週間当たりの活動時間

n = 134



1日当たりの活動時間

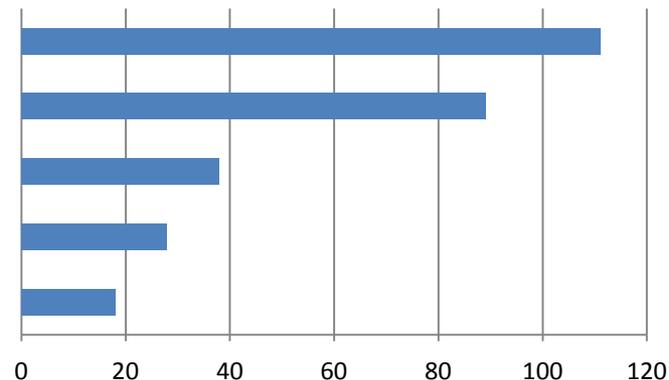
n = 134



活動内容

n = 284

- 学校や学校関係者、地域の団体等の連絡調整
- 地域の協力者の確保、登録、配置
- 地域の実情に応じた定期的、継続的な活動プログラムの企画等
- 放課後児童クラブや放課後子ども教室等との連携についての調整
- その他



- ・地域行事への参加の連絡調整
- ・学校と地域との情報交換のパイプ役
- ・学習支援とそれに協力してくれる方への連絡
- ・児童・生徒の活動の情報発信
- ・運営委員会の設置、規約の制定、支援ボラの募集、愛校作業補助
- ・広報活動
- ・保護者・児童向けの活動報告(おたより)の作成・配布

- ・児童の体験教育や情操教育に関わる事業の推進
- ・子どもと地域の人との交流や活動のサポート
- ・放課後子ども教室お手伝い
- ・宿題プリントの丸付け
- ・学校と情報共有
- ・図書室の整備 等

8 課題・ご意見等

(学校アンケートより抜粋)

◆ 課題

<地域人材の確保>

- ・学習支援に対する地域の人材が不足している。
- ・事業に参加してくれる方の固定化と高齢化（新たな人材確保が課題）
- ・本事業を無理なく持続発展可能な組織事業にするためには、コーディネーター役の継承時が節目になると思われます。そこで、コーディネーターを複数名配置し一人ずつ代替えをすることで、引継時に生じる不具合の軽減が可能になると思います。また、児童の学習に係るサポート人材の確保には、更なる働きかけの必要性を感じています。

<地域連携担当教職員の配置>

- ・連絡・調整役の教員1名の人員配置をお願いしたい。
- ・現在は教頭が連絡調整役をしているが、公務やPTA活動を日常的に抱える中で、多大な実務負担となっており、事務局を担ってもらえるような専任のスタッフがほしい。

<その他>

- ・中学校ブロックとしての事業の推進について、さらに検討していく必要がある。
- ・本部事業が継続できる期間は良いが、この事業が終了したとき今の環境を維持できるかが課題。
- ・事業実施前に受けた説明より、事務的な作業が多かった。

◆ ご意見等

- ・教員にこの事業の活用方法や効果などを継続的に周知していく必要がある。その際、活用できるリーフレットなどがあればありがたい。
- ・ボランティア精神での活動を基本としているが、支援の方々も仕事等を持たれており、各種活動を行う場合は、時間的な拘束を必要とするため、金銭的な配慮も必要になってくる。学校も地域の皆さんもあまり無理をしない範囲で、今後も継続して実践ができるような無理のないスタンスでの取組を考えなければならない。
- ・目的の確認や活動計画などを年度当初の会で共有すること、年度末には次年度の活動に生きる総括を行うなど、年度当初と年度末の会合が重要であるので、大事にしたい。
- ・すべての学校がこの事業を活用することで、持続可能な「地域とともにある学校づくり」が実現できます。
- ・事業を通して、私たちがまだまだ知り得ていない素晴らしい人材・地域の教育力があることを感じた。そこでは両者にとって当然メリットとなるものが必要であり、学校からの7方向的な欲求となると息の長い取組とならないと感じた。

(コーディネーターアンケートより抜粋)

◆ 課題・ご意見等

- 本事業は続けることに意義がありはしないか。
- 予算の使い方について、もう少し自由度があればよいと思う。
- 地域コーディネーターの方の育成が急務であると思います。
- 地域の方も働いているので、平日の協力者確保は難しい。
- 事業を通して、地域と学校、子どもがふれあう活動が活発になってきたが、それを無理なく継続していくこと、さらに多くの人に広げていく情報発信が今後の課題である。
- ボランティアの高齢化により新たなボランティア登録が厳しくなっている。
- 地域の方に支えられて、学校地域支援本部を継続しているが、地域に協力してもらえばかりで地域のイベント等でも、人が少なかったり、困っていることがあると思うので、互いに協力することも必要ではないかと思う。少しずつ学校支援地域本部の活動が、範囲が大きくなってきており大変さを感じる。
- コーディネーターとして、まだまだ経験・知識不足のため、効果的な活動ができていないので、もっと勉強をしたいと思います。

(市町村アンケートより抜粋)

◆ 研修会を実施するにあたっての課題

- 報償費等の支払いがない平日実施の研修会に参加者がいるかどうか。
- 各自が仕事を持っており、実施が難しい。
- 県主催の研修会を案内するが、村行事が多く、数日つづく研修会へは参加しにくい。
- 忙しい方が多く、時間が合わなかったり研修会等に参加することを億劫がる方もいるため実施できていない。

◆ 課題・ご意見等

- 地域コーディネーターや教育活動推進員の人材を見つけることが、難しい。事業実施校が増加するにつれて、市の予算も増加している課題がある。
- 学校支援＝地域全体の取り組みと感じていますが、地域性があり同じ内容とはことなります。国、県と同等なことでなく（方向性としてはわかりますが）その地域にあった支援が行なえるのであれば、今後も続けていけるのではないのでしょうか。
- 非常に理解をしていただく事、活用について難しい所ではありますが、少子化が広がる中、子ども・学校を核に地域の活性化を図る上で非常に有効な事業であると感じる。現在県全体で推進をしていっている体制が非常にありがたい。継続できる体制を構築していきたい。

